

チリ大地震

津波 4時間継続

早大調査団確認 沿岸で局所的に

2月末のチリ大地震の際、同国中部の沿岸部で局所的に4時間以上津波が繰り返し押し寄せたことを、早稲田大の柴山知也教授(海岸工学)らが現地調査

14日、早大で記者会見した。
柴山教授らは今月2

で確認した。津波が海岸線付近の浅い海域で反射を繰り返し、たことが原因という。11日、震源に近いチリ中部の沿岸で津波被害を調査した。大きな被害が出たコンステイトゥシオン南方の港町ジークでは約4時間にわたって津波が押し寄

せた。その間に最大約6メートルを含む大きな津波が計3回観測されたほか、その最後の津波が町を最も破壊したとの証言があった。他の町でも規模と周期は異なるものの津波が4時間以上続いていた。

津波は浅い海域の深さ約35メートル地点を震源とする地震で発生した。津波が海岸で反射した後にも拡散することなく反射を繰り返したの

は、海底の傾斜が緩い大陸棚の沖に急斜面が続く沿岸の地形的な特徴によるという。柴山教授は「国内でも津波は連続して起きうる。特に港湾内では顕著に反射を繰り返す。第1波が小さいからといっ

て第2波も小さいとは限らず注意が必要だ」と警告する。

【八田浩輔】